

# 「よこぐし」のアートマネジメント講座 第1回

**日時** : 令和7年1月13日 (月・祝) 13:30~16:00

**会場** : 丸亀市役所2階201.202会議室

**講師** : 長津 結一郎 氏 九州大学大学院芸術工学研究院准教授

松岡 弘樹 丸亀市協働推進部まなび文化課 市民会館開館準備室長

**参加者** : 18名

# 松岡 弘樹：文化芸術の公共性について



# 長津 結一郎 氏：「自分ごと」からはじめる あらゆる領域をつなぐ文化芸術の特性について



# 古賀 今日子 氏：次回の講座について



# 配布資料

令和6年度  
よこぐしのアートマネジメント講座

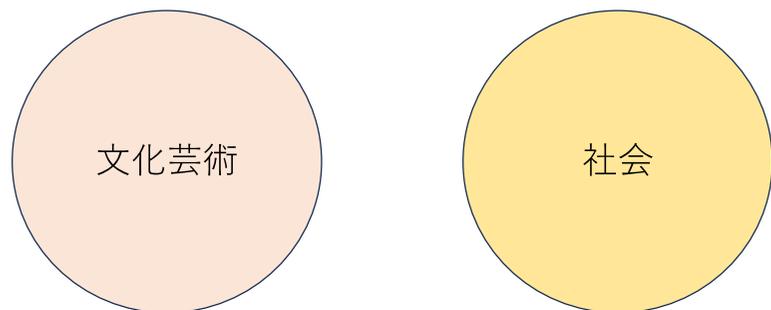
丸亀市協働推進部まなび文化課市民会館開館準備室  
室長 松岡 弘樹

テーマ

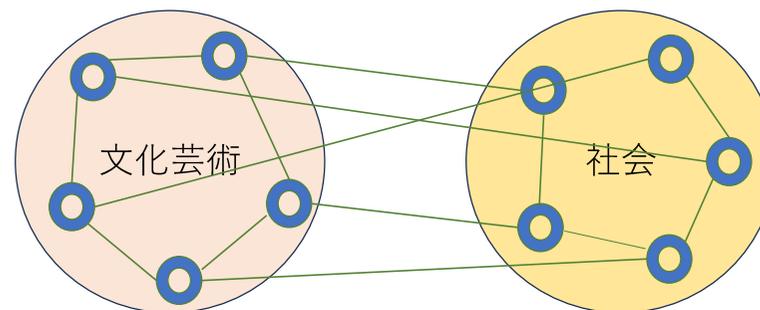
【文化芸術の公共性について、話を聞いてみる】

- 1 本講座の目的
- 2 自分ごと
- 3 丸亀市の文化芸術政策

講座の目的



講座の目的



## 講座の長期目的

街の魅力向上  
住民のウェルビーイングの向上

みなさんにとって街の魅力とは、ウェルビーイングとは？

## 自己紹介（自分ごと）

- 昭和50年5月生まれ 49歳
- 趣味：スポーツ
- 平成11年4月 綾歌町役場に入庁

### 【役所での仕事】

廃棄物・し尿、畜犬、墓地→市道の建設修繕、道路法上の行政処分→下水道管の敷設・管理、下水道法上の行政処分、浄化センターの建設→固定資産税→新庁舎建替→新市民会館の計画→保育所運営や入所→市民会館の建設運営・・・【行政職員25年生】

## 地域行政のお仕事

### 地方自治法

**第1条** この法律は、地方自治の本旨に基いて、地方公共団体の区分並びに地方公共団体の組織及び運営に関する事項の大綱を定め、併せて国と地方公共団体との間の基本的関係を確立することにより、地方公共団体における民主的にして能率的な行政の確保を図るとともに、地方公共団体の健全な発達を保障することを目的とする。

**第1条の2** 地方公共団体は、**住民の福祉の増進を図ることを基本として** 地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする。

住民の福祉の増進 → 住民の課題を解決し、ニーズを満たすお仕事

## 住民の課題やニーズ

幼年 少年 壮年 中年 高年  
男性 女性 LGBTQ  
独身 既婚 子どもの有無  
健康 病気 障がい  
中心地 僻地 離島  
道路 街路灯 農地  
野犬 野良猫 猪 動物愛護  
文化芸術 スポーツ 生涯学習

課題やニーズは、ほとんどの場合「自分ごと」から始まり、極めて多様で複雑

## 私にとって文化芸術とは（当初編）

- 技術がある人だけのもの（学校教育での挫折）
- 難解、不可解
- 退屈
- 写実的なもの、わかりやすいものしか共感、感動できない（想像力の欠如）



- 好きな人だけがやればよい（公的支援は不要）
- 見たい人だけが見ればよい（公的支援は不要）

## 文化芸術行政への悩み



難しい・・・  
わからない・・・

アートと社会の共通点って何だろう

## 最初に意識したキーワード

対 話

平田オリザ（劇作家・演出家）

湯浅誠（社会活動家）

森川すいめい（精神科医）

会 話  
議 論  
対 論  
対 話

多様性×対話

## 多 様 性

「みんなちがって、みんないい」

新しい時代の日本に求められるのは、多様性であります。

みんなが横並び、画一的な社会システムの在り方を、根本から見直していく必要があります。

多様性を認め合い、全ての人とその個性を活かすことができる。

そうした社会を創ることで、少子高齢化という大きな壁も、必ずや克服できるはずです。

令和元年10月4日  
安倍内閣総理大臣所信表明演説（抜粋）

異なる価値観や文化的背景をもった人々との対話や共生は、大変だし面倒くさい。それぞれの価値観のすり合わせによって新しい価値を創造していかなくてはなりません。

平田オリザ

多様であることはつながりにくくなる。多様性のある社会は分断されていく。重要なのは「納得解」。その人との正解を、その人との間合いの中で、見つけること。

湯浅誠

オープンダイアログの目的は相手側にある。相手のことはわからないからこそ、お互いのやり取りを続けることが必要だ。パワーを持った側は、これが結論だと立ち去ることができてしまうことを自覚し、対話を閉じることはしてはならない

森川すいめい

## 対話的な精神

対話的な精神とは、異なる価値観をもつ人との出会いによって自分の考えが変わることを潔しとする態度。さらには、そこに喜びさえ見いだす態度。

平田オリザ

## 気づきのきっかけ



平成 29 年度丸亀市文化振興会 まるがの文化芸術祭 2017 特別事業

### アートなんて役立たず？

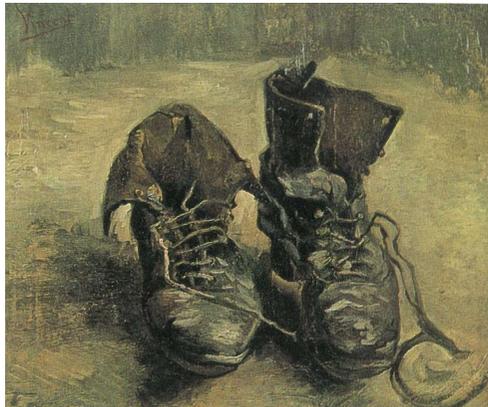
講師  
**福のり子**  
(京都市芸術大学教授)



2017 年  
**9月10日(日)**  
13:30-15:00  
(開場 13:00)

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館  
2 階ミュージアムホール  
入場料：無料 (定員 200 名)  
※丸亀駅前地下駐車場・2 階有料 (ホール入口にて駐車券をご確認ください)  
お問い合わせ先：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 TEL 0877-24-7755

本企画は京都市芸術大学丸亀校が主催し、京都市芸術大学、京大、京大芸術センター、京大芸術センターが協賛しています。京大芸術センターは、京大芸術センターが主催し、京大芸術センターが協賛しています。京大芸術センターは、京大芸術センターが主催し、京大芸術センターが協賛しています。





私にとっての自分ごと





## 小学校低学年

### 【現状】

- ・コロナ禍の影響
- ・対面での遊びが制限され、異年齢、異分野の関係性が減少した
- ・就学前教育保育の本質である、自発的な活動としての遊びが制限された



コミュニケーション能力が育むチャンスを失った

### 【小学校での新たな課題】

友達の作り方がわからない子どもが増えた  
クラスがなかなかまとまらない

## コンテンポラリーダンス×学校教育



人と違う表現の方が面白い、表現の違いを認め合う・排除される子どもがいない  
非言語コミュニケーション

## 学校の先生へのアンケート

普段は型にはまった授業が多い中、ワークショップでは自由な発想で「どれも正解！」と思える活動ができ、とてもよかった。

表現をした後にみんなからもらえる称賛の言葉や、たくさんの拍手により、自己肯定感がとても高まったのではないと思う。

普段、関わりの少ない児童同士も仲良くできることが良いと感じた。

普段は消極的な生徒が積極的に参加している姿が見られて驚いた。

日々一緒に過ごしているが、子どもたちの新しい一面が見られる機会になりました。

## 高齢者（認知症）

### 【現状】

- ・2025年には、65歳以上の5人に1人が認知症患者
- ・これまでの認知症の人のケアの流れ

「自宅⇒グループホーム⇒施設あるいは一般病院・精神病院」

### 【目指すべき社会】

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の、よい環境で暮らし続けることができる社会。

### 【課題】

認知症に関する正しい知識と理解の普及  
地域による支援体制の構築

## 認知症×演劇



## 参加者へのアンケート

認知症への理解やアプローチについて、多分野からできることがあるという可能性を感じました。

認知症の方に対して、女優・俳優になれという言葉、まさに認知症の人に対する関わりが深くなると思いました。

認知症の義父を介護する義母の苦勞が理解できました。

認知症について冷ややかに見るが多かったのですが、温かい目で見えた方が両者にとって幸せなのだと感じました。

演劇を身近に感じることができ、とても楽しかったです。

## 障害福祉

【法律では】  
「分け隔てられることなく」「相互に人格と個性を尊重し合いながら」「共生する社会」

【現状】  
障がいのある方とない方が“日常的に”出会う機会がほぼ皆無

【なぜなら】  
今の社会は、障がいがない人にとって生産性が高い「制度設計」になっているから

【課題】  
私たちの価値観や社会の制度を変えていく必要がある

## コンテンポラリーダンス×障害福祉施設



## 施設職員へのアンケート

普段表情がない利用者が笑顔になっていた。感じたことを自分のイメージに変えてしっかり表現できていたのに驚いた。

「この人はここまでしかできない」や「できない」と決めてつけずに一緒に挑戦してみる、やってみることが大切だと思った。

今までの支援の中で苦手だと思っていたことも、今回参加している姿を見て、一概にはそうとは言い切れないと思った。

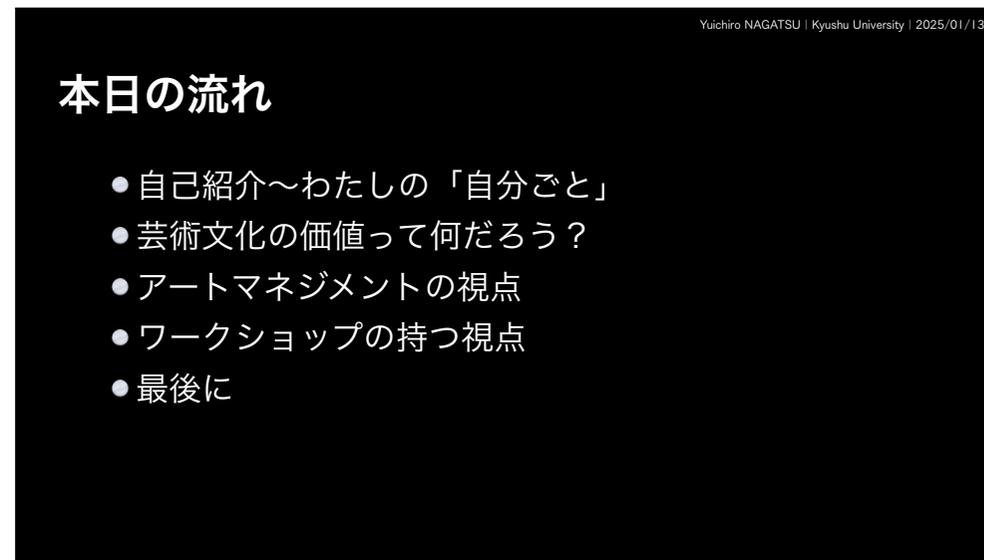
利用者の普段見せない表情が見れてよかった。こんな動きや表現ができるんだと驚いた。

コミュニケーションの取り方を考えられるようになったと思う。

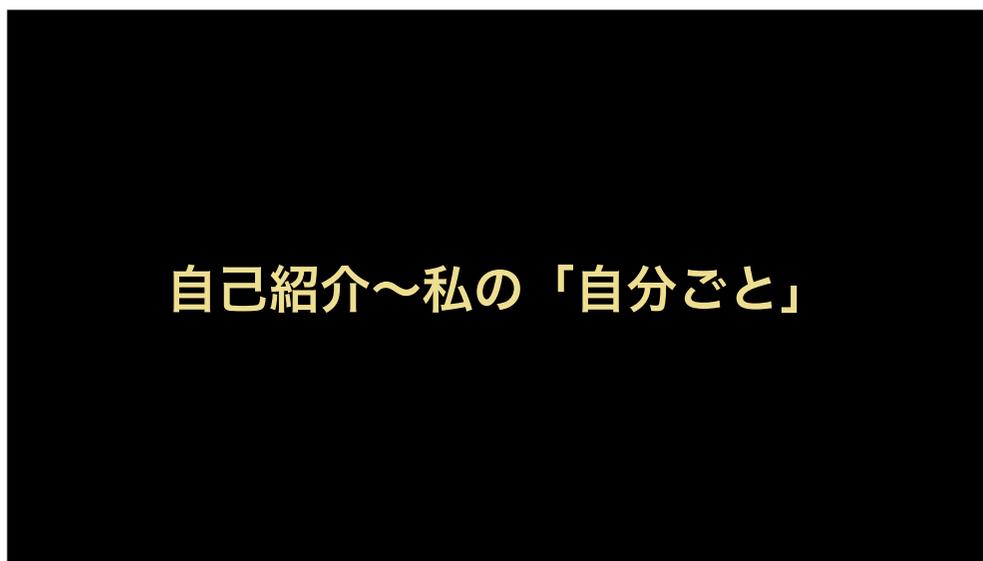
- まずは自分ごとから
- 他者の自分ごと（異なる価値観）を聞いてみる
- 共感できなくても、理解できるまで聞いてみる
- 自分ごとと他者の自分ごとから新しい「コト」を作ってみる



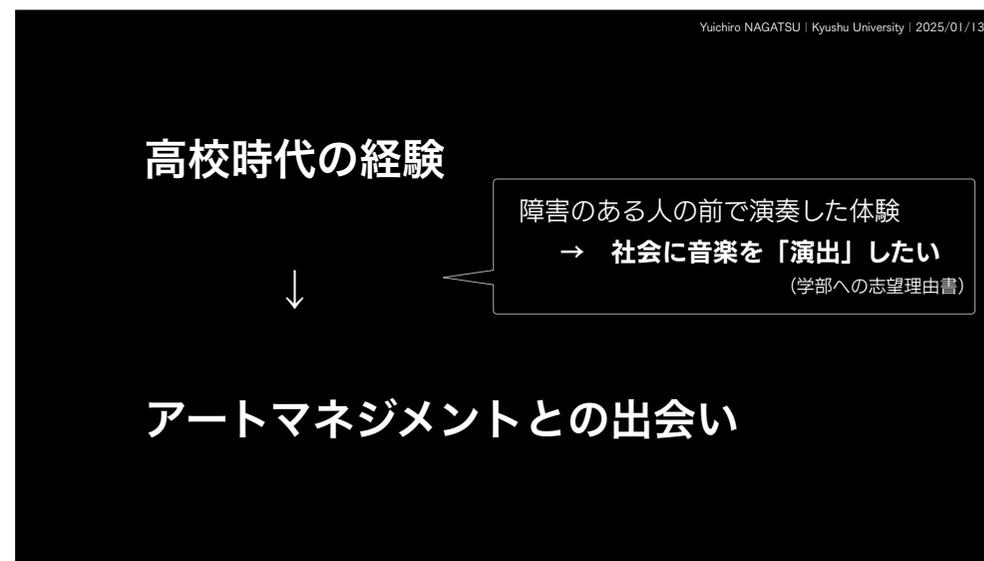
1



2



3

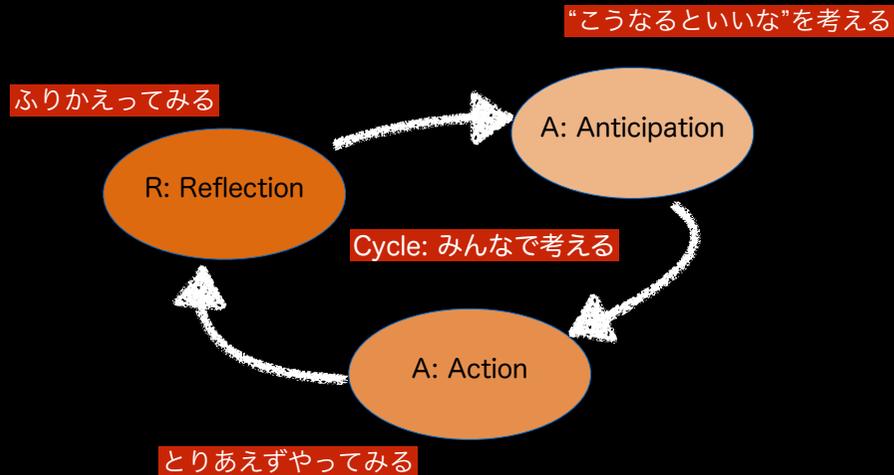


4



5

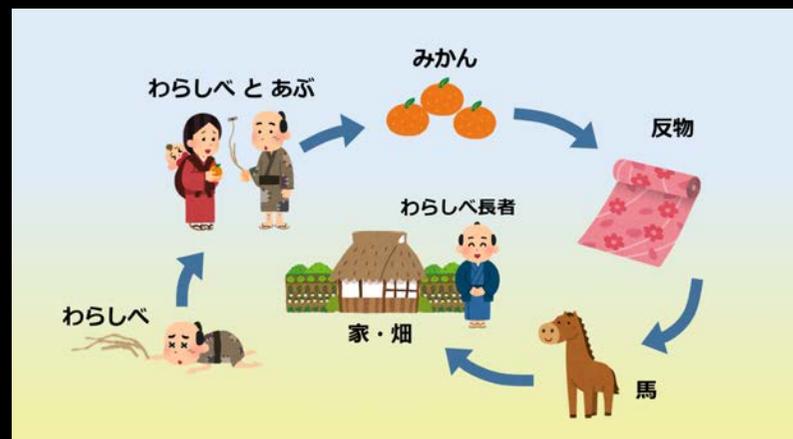
### AARサイクル



6

やってみて、振り返る。  
それを続けていたら  
いつのまにか  
知らないところに辿り着いた。

7



8

## 芸術文化の価値って何だろう？

9

## 文化芸術推進基本計画（第1期）が掲げる価値

- ・ 芸術の「本質的価値」
- ・ 芸術の「社会的価値」
- ・ 芸術の「経済的価値」

→ 芸術が持つ**波及効果**に着目する

10

## イギリスの研究プロジェクトの成果から

- ・ 個人の内省による変化  
： 自分自身や自分の人生についての理解を深めること、  
他者に対する共感を高めること、  
人間の経験や文化の多様性を理解することなど

- ・ 個人の幸福感
- ・ 市民的関与
- ・ 都市再生に向けた機能
- ・ 長期的な地域経済への影響  
： **コミュニティ・社会・経済レベルへの波及**

「芸術文化の価値とは何か 個人や社会にもたらす変化とその評価」

11

芸術が社会につながる？  
社会が芸術でひろがる？

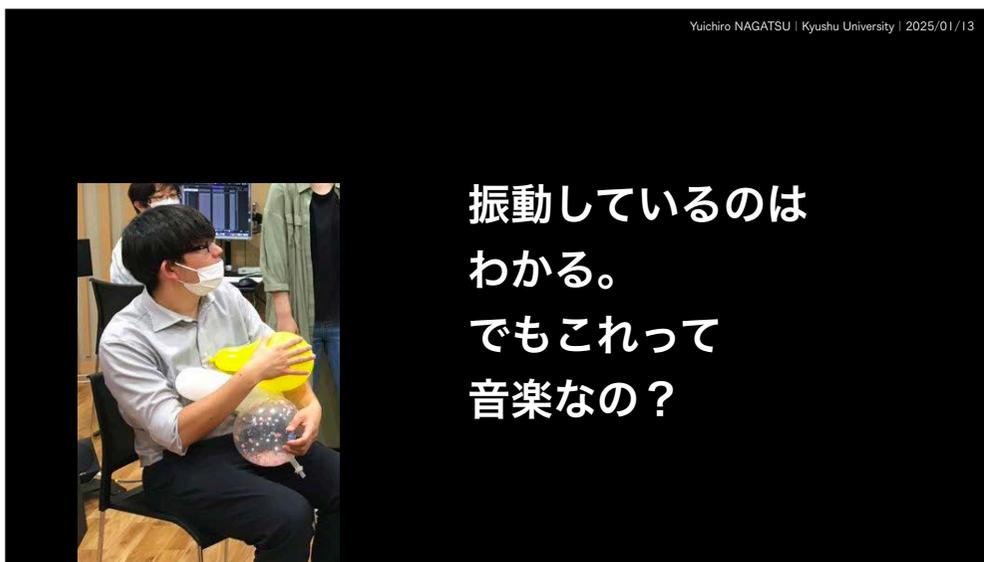
12



13



14



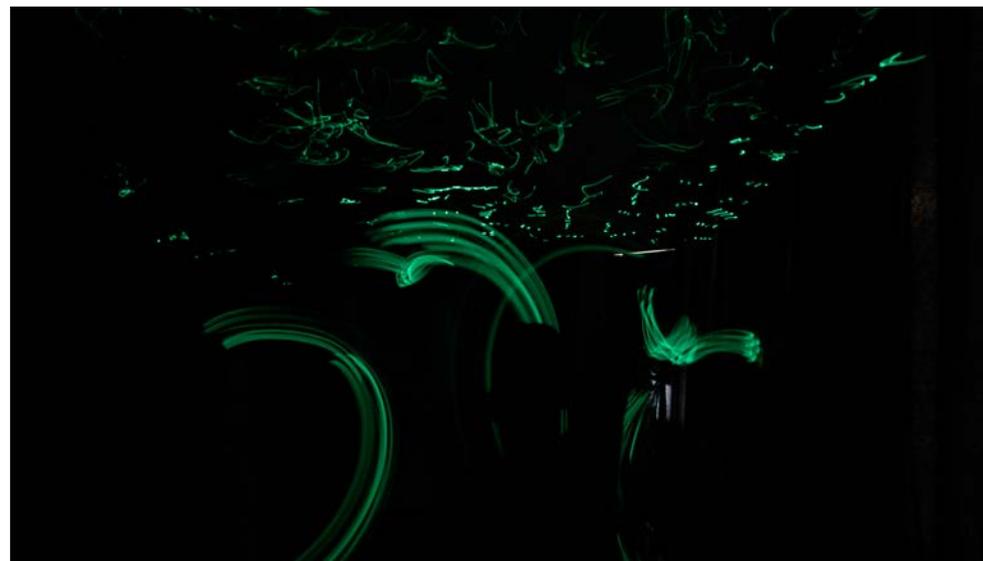
15



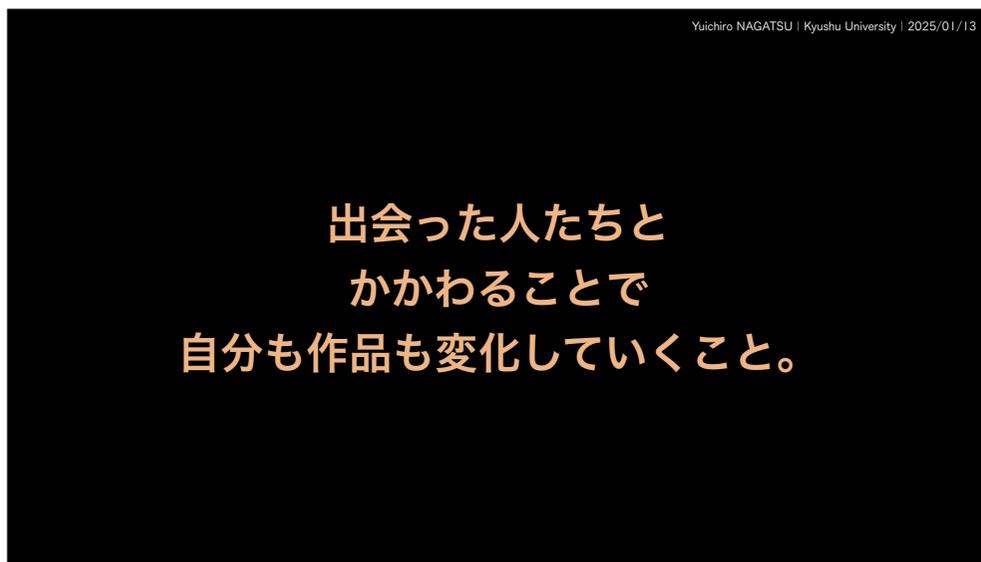
16



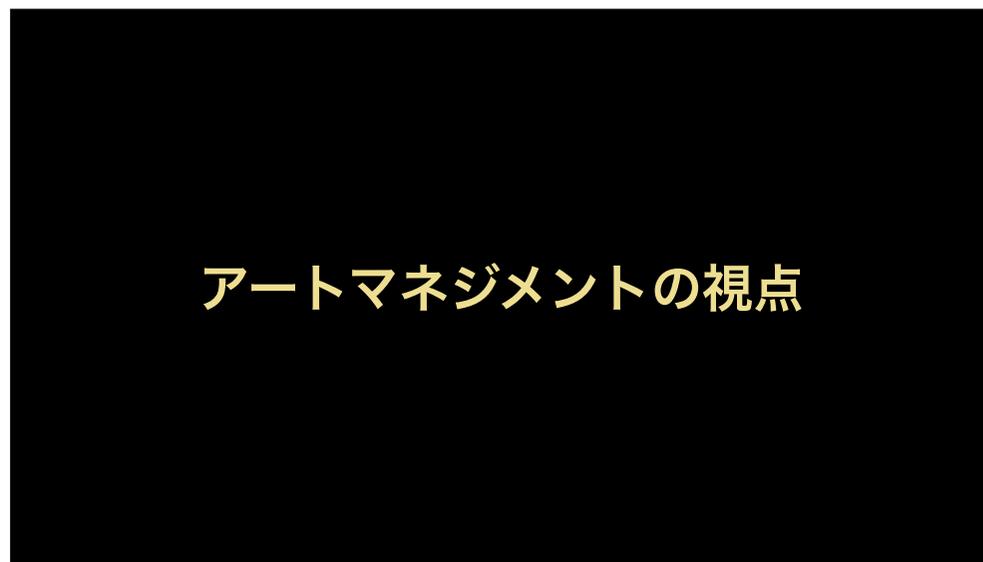
17



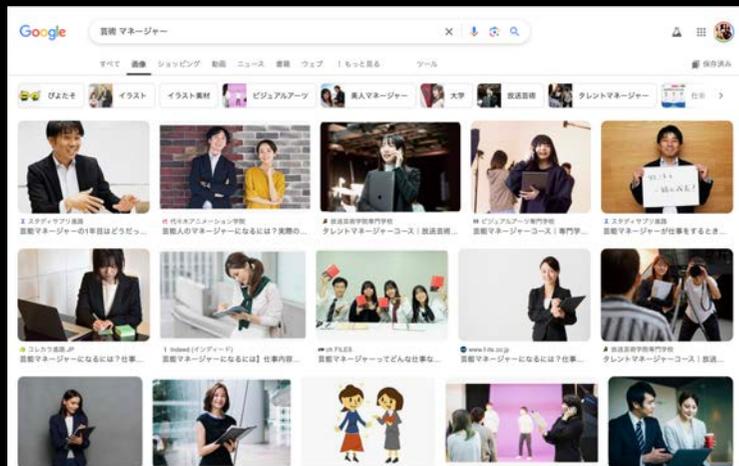
18



19



20



21

## アートもマネジメントも人から始まる

- ・ アートの語源はラテン語で「ars (アルス)」 = 人によるさまざまな技術
  - ・ マネジメントの語源はラテン語の「manus (マヌス)」 = 「手」
    - \* 馬の手綱をさばくという意味も
    - \* 暴力、力という意味も
- 「アートもマネジメントも人から始まる」



22

## 演劇の制作さんがやっていること (例)

	作品企画・産出	稽古期間 (1.5-1ヶ月)	舞台稽古/仕込み (3-7)	本番	公演終了後
予算・劇場・契約	<ul style="list-style-type: none"> <li>稽古場予約</li> <li>音楽著作権関係の処理等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>稽古場ケータリング</li> <li>稽古スケジュール管理</li> <li>出演者スケジュール管理</li> <li>交通手配</li> <li>稽古場の環境づくり業務</li> <li>各種変更連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽屋割の作成</li> <li>楽屋ケータリング</li> <li>出演者スケジュール管理</li> <li>公開稽古対応</li> <li>舞台写真撮影</li> <li>グネプロ取材対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フロント業務</li> <li>招待客/取材対応</li> <li>当日券対応</li> <li>パンフレット販売</li> <li>楽屋ケータリング</li> <li>舞台収録</li> <li>トラブル対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>精算</li> <li>事後記事対応</li> <li>チケット売上確認</li> </ul>
広報宣伝	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報宣伝企画作成</li> <li>プレスリリース作成</li> <li>ポスター・チラシ作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DM発送</li> <li>招待券発送</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記者会見</li> <li>稽古場取材等</li> <li>当日パンフ作成</li> </ul>		
チケット営業	<ul style="list-style-type: none"> <li>チケット営業企画作成</li> <li>配券計画作成</li> <li>チケット価格確定</li> <li>団体営業開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>販売客席の確定</li> <li>特別席の確定</li> <li>インナーチケット手配</li> <li>一般前売り開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見切れ席等の最終確認</li> <li>チケット売りあげ確認・再配券</li> </ul>		

23

## 2つのアートマネジメント

芸術を観客に紹介する  
 芸術家の活動を保証し創造を可能にする  
 (狭義のアートマネジメント)

+

芸術によって、社会の持つ  
 潜在能力の向上を支援する  
 (広義のアートマネジメント)

24

## 2つのアートマネジメント

芸術を観客に紹介する  
 芸術家の活動を保証し創造を可能にする  
 (狭義のアートマネジメント)

+

芸術によって、社会の持つ  
 潜在能力の向上を支援する  
 (広義のアートマネジメント)

25

## アートマネジメントの視野

- ・ 芸術そのものが振興されるにはどうしたらいいか？
- ・ 芸術に関わる「人」が豊かに芸術活動を継続するにはどうしたらいいか？
- ・ 社会制度として芸術家の活動をどのように保障できるか？

↓

## アートの場のデザインとしてのアートマネジメント

26

## 合理的配慮 → 理にかなった調整

- ・ 合理的配慮 (障害者差別解消法にともなった措置)
  - ・ 英語では “reasonable accommodation”
  - ・ どちらか片方の「合理性」により「配慮」されるのではない
  - ・ 「均衡を失したまたは過度の負担を課さないもの」を  
 「必要かつ適当な変更および調整」していくもの
- ①当事者からの要望 ②「建設的対話」 ③具体的な調整

27

言語の壁が、  
 作品の理解を妨げる場合は？



働いている人たちが  
 参加しづらい場合は？

大規模な催しで、混雑で  
 ストレスを感じないためには？



28

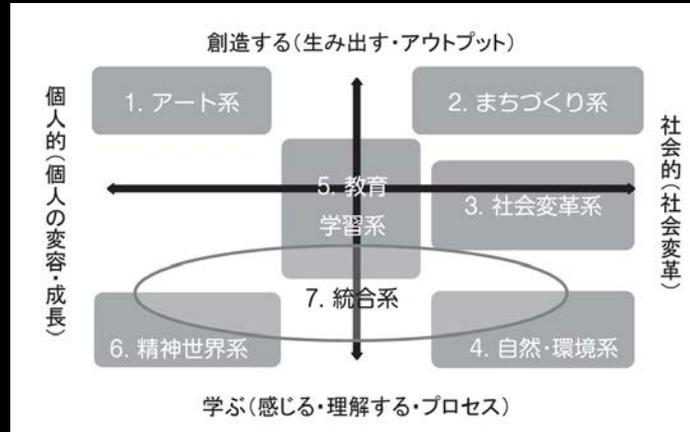
アートと社会の間に立ち、  
手綱をさばいて、  
自分も変わる。

## ワークショップの持つ視点



## ワークショップ？

- ・ もともと「工房」「作業場」という意味 (workshop)
- ・ 中世ヨーロッパでの職人の学習・製造の場から始まった
- ・ 現代では「創る活動」と「学ぶ活動」を統合する形式へと進化
- ・ **参加者による体験的な活動に基づいた共同の学び**



[https://www.ritsumeai.ac.jp/kyoshoku/kankobutu/file/kiyo\\_special/01.pdf](https://www.ritsumeai.ac.jp/kyoshoku/kankobutu/file/kiyo_special/01.pdf)

33



[https://www.ritsumeai.ac.jp/kyoshoku/kankobutu/file/kiyo\\_special/01.pdf](https://www.ritsumeai.ac.jp/kyoshoku/kankobutu/file/kiyo_special/01.pdf)

34

- **全員が参加できる場**
- 芸術文化の技術を教えたり向上させたりするのではなく、  
**相互作用のプロセス**に注目する場
- **芸術家のやりたいことの本質**がとらえられている場
- 参加者が**いつのまにか**その芸術の本質を体験してしまう場
- 芸術文化の**新しい魅力**に気づく場
- 芸術文化が人と人、人と団体との**結節点**になる場
- 参加者同士の**新しいコミュニケーション**が生まれる場

大野城市 アートワークショップ6箇条を改訂

35

**安全な場で、  
アートと社会がつながることで、  
さまざまな波及効果が生まれる。**

36

最後に

37

## 公共文化施設の「公共性」



official  
公的な



common  
共通の



open  
開かれた

齋藤純一「公共性」

38

みんなに共通なものは  
実現可能か？  
いろんな工夫を凝らす  
開かれた「公共」文化施設。

39

ありがとうございました！



40

# アンケート結果

# 1/13【第1回】「よこぐし」のアートマネジメント講座アンケート

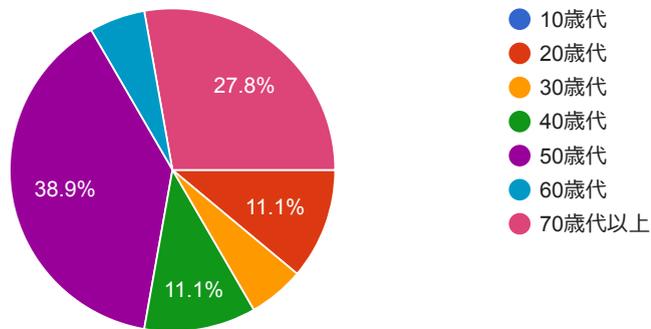
18件の回答

[分析を公開](#)

年齢を教えてください。（任意）

[コピー](#)

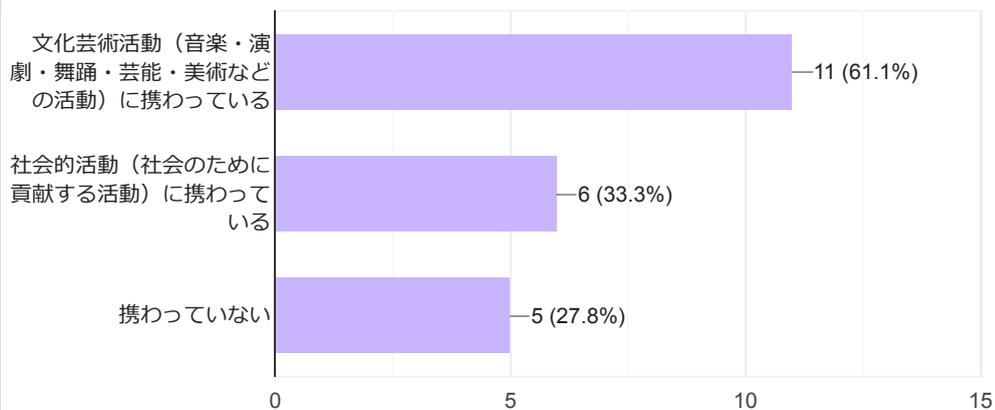
18件の回答



あなたは文化芸術活動または社会的活動に携わっていますか。

[コピー](#)

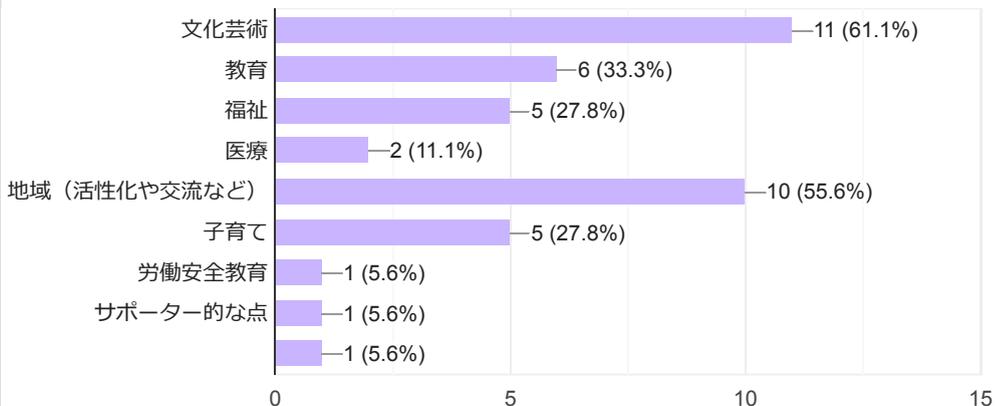
18件の回答



あなたの活動と接点やつながりがある分野はありますか。

[コピー](#)

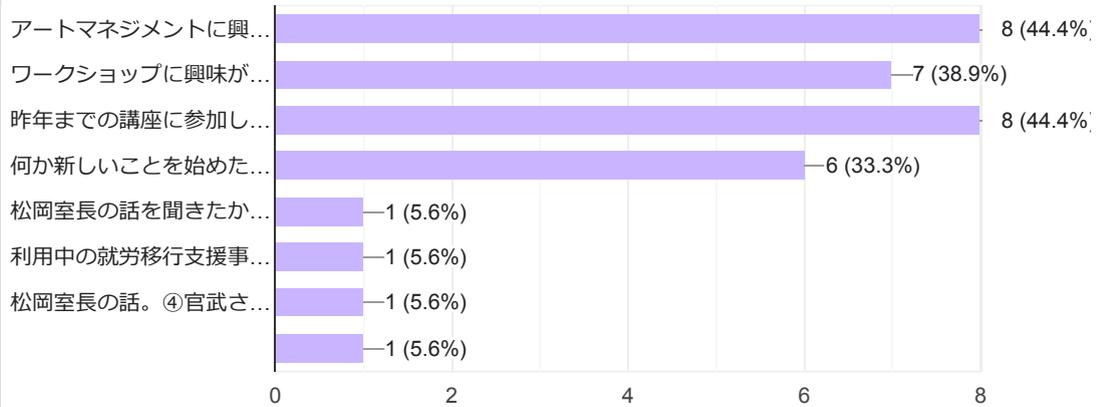
18件の回答



本講座へ参加しようと思った動機は何ですか。

コピー

18 件の回答

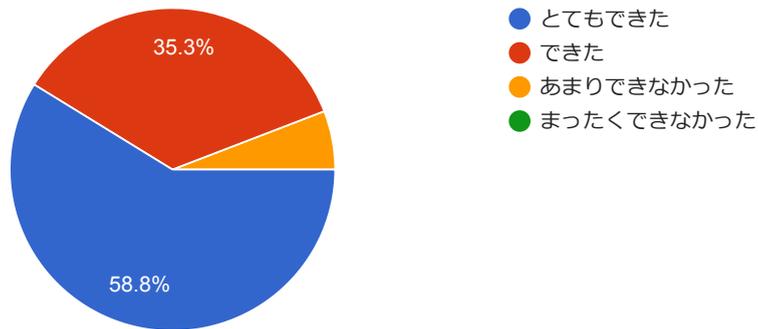


今回の講座を受けて、感じたことや気づいたことなどについてお伺いします。

自分を見つめ直す、違った価値観と出会う、新たなつながりを生み出すなど、文化芸術活動が人や社会に与える影響についてイメージできましたか。

コピー

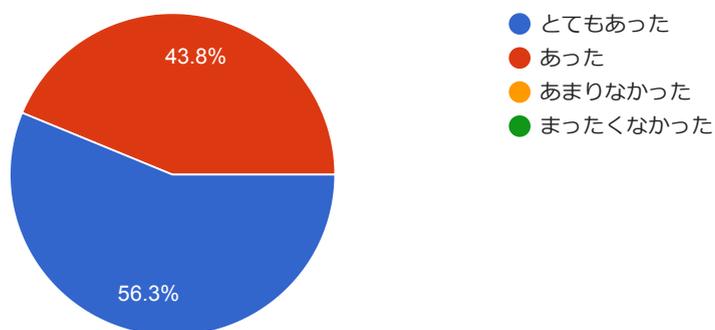
17 件の回答



自分の活動や生活に関する気づきやヒントになることがありましたか。

コピー

16 件の回答



それは具体的にどんなことですか。

13件の回答

「対話」「workshop2.0」

価値観の違いで生じる意見のずれ。難しい。犬のことが特に。誰かの苦痛につながることでさえもさけられたらいいのに。(人・動物どちらも)人の苦痛を防ぐためにどうしても犬を殺すなら、せめてその方法を徹底して楽なものにするとか。人は殺せないだろうから。

対話ではAかBの選択ではなく、Cも考える代替という手法も広げたい。

自分とは価値観が異なる人について、当方は違いに気づいているが相手方は一方的に当方を悪いと決めつけ自分の考えに固守する。冷却期間を置くがどうにもならない人々もいる。そういう人々に対しては自分の考えも限度があるなあと納得できる。譲るばかりもしてられない精神的なやり方だけでは解決できないこともあるのだと思う。

価値観や捉え方は人の数だけある。対話によって納得解を導き出すことで自分が豊かになれる。

より身近なことに生かしていきたいと思った。

上下へだてのないつながりのできることをしていけるヒントになった。

「人」ということ。「対話」が大事ということ。  
正解がないということが理解はあるが...。「失敗してもいい」ということも大事。  
「AARサイクル」今の自分のようだ。納得感。  
workshop3.0=自助グループ会...。これは本当に必要かも...

自分事としての視点から色々な問題点を発想の基点にしていけば、何かしらのマネジメントにつながるのかなあ。

同じ空間で、同じもの、ことを共有しても、見え方・感じ方は人それぞれ。  
リラクスパフォーマンス、ドラマトウルクなど初めて耳にするワードがたくさんあった。

「自分のこと」が理解できたら「相手のこと」を理解できる。「芸術って何か」と思ったら「心の喜びや楽しみ」で、それぞれ個性があると、気づかされる。個性は何かを考えると難しいけど。

アート、文化芸術がどう自分たちの生活に関われることができるか考えて、何かできそうだと思った。身近なことからでよいと思った。

仕事。人生の分岐点に立って、今からどうするか?どうなるか?  
原点は経験と行動の継続かと思う。



講座に関して意見や感想があればご記入ください。

10 件の回答

縦社会の日本単一民族国家の中で、必要なのはコミュニケーションによる創造文化に学び、社会に貢献していきたい。

善意と良識の上に立って話をされているが、世の中そういう人ばかりではないなあと思った次第です。

次回から楽しみにしています。ありがとうございます。そしてよろしく申し上げます。

次回も楽しみです。

◎「文化芸術」という言葉を食わず嫌いの人が多い→全て「よこぐし」にして活動してみてもいい？

◎今、劇場工事も建築アート。自分も小さい頃工事を見るのが好きだった。そこからアート思考もできたので、子どもに「工事現場の見学」でイメージを膨らます機会を。

◎合理的配慮→今の学校「不登校・引きこもり」に通じている。しかし学校でひずみある。理解されていない。ここ大事かもしれない。

学ばせていただけることが一番！

きている、インプットの時間ですが、とても楽しかったです。今回は第1回しか参加できないのですが、来年はぜひ全日参加したいと思います。

介護の仕事を通して、芸術のワークショップを何回か同行した。利用者の変化を実体験して、素晴らしさがわかるので、もっと多くの人に体験してほしいと思う。

和やかな感じでかたくならずに参加できそうでいいなと思う。

大勢の人に聞いていただきたい講座でした。

毎時毎日の生活感がリアルに表現化される！これからも楽しみに参加します。（土曜日はイベントのため早退か？後参でもよろしければ）

？の側面の発見を知りそれを大切にする。「よこぐし」よく解りました。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 - [利用規約](#) - [プライバシー ポリシー](#)

Does this form look suspicious? [レポート](#)

Google フォーム

